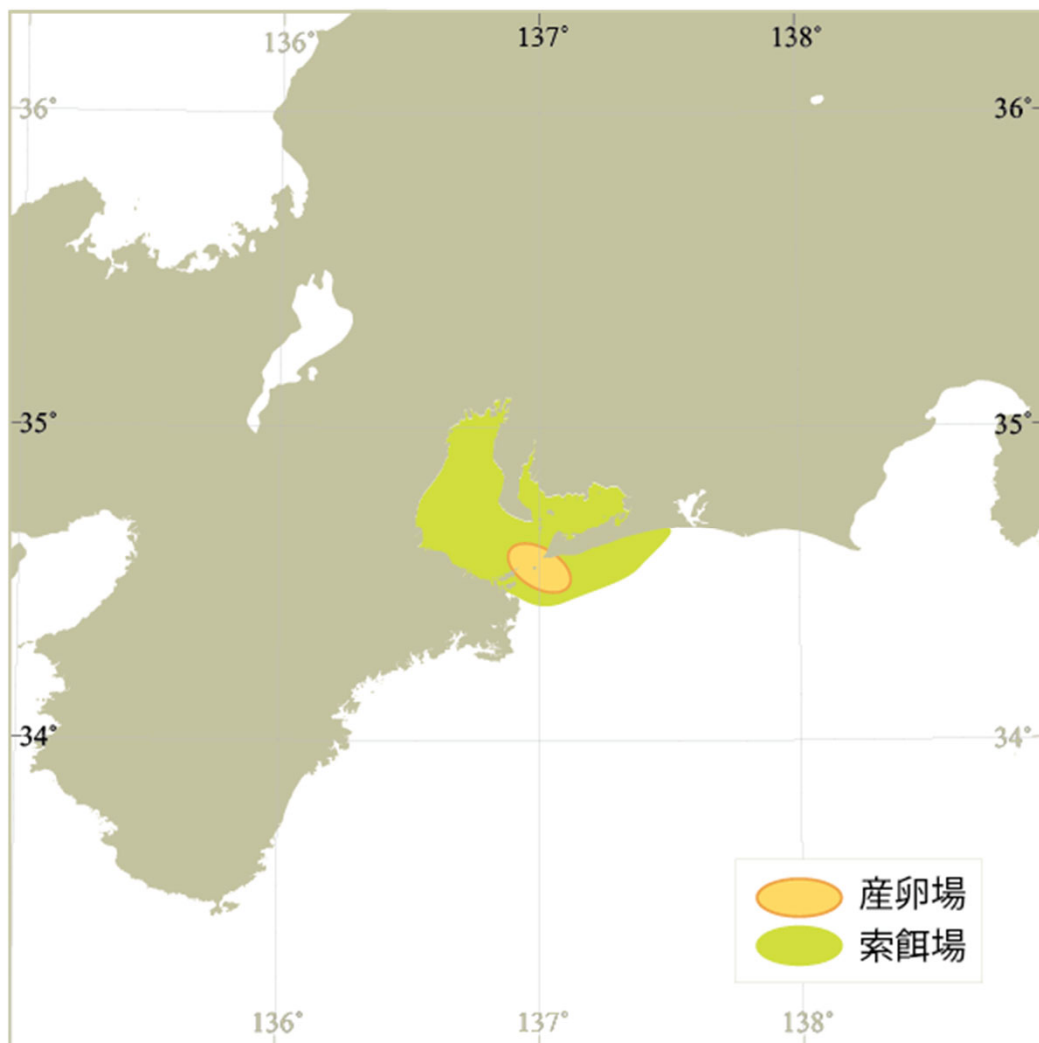




イカナゴ伊勢・三河湾系群 令和8年度資源評価結果

生物学的特性

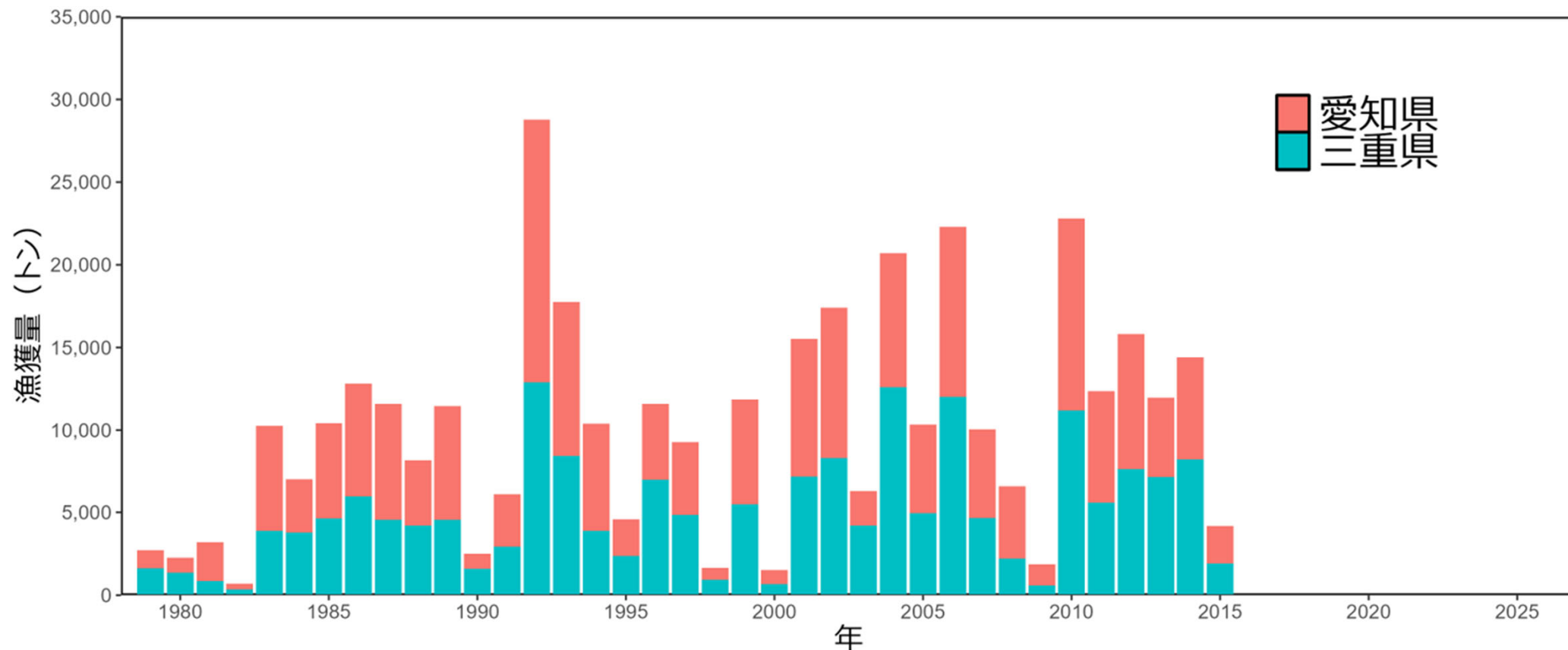


生物学的特性

- 寿命：2～3歳
- 成熟：1歳（100%）
- 産卵期・産卵場：12月～翌年1月、伊勢湾の湾口部付近から渥美外海の礫砂の海底
- 食性：主に動物プランクトン（カイアシ類が主体、ヨコエビ類、ヤムシ類、アミ類）、伊勢湾では加えて植物プランクトン（珪藻類など）
- 捕食者：仔稚魚期には多様な浮魚類やヤムシ類、未成魚および成魚期にはヒラメ等の底魚類

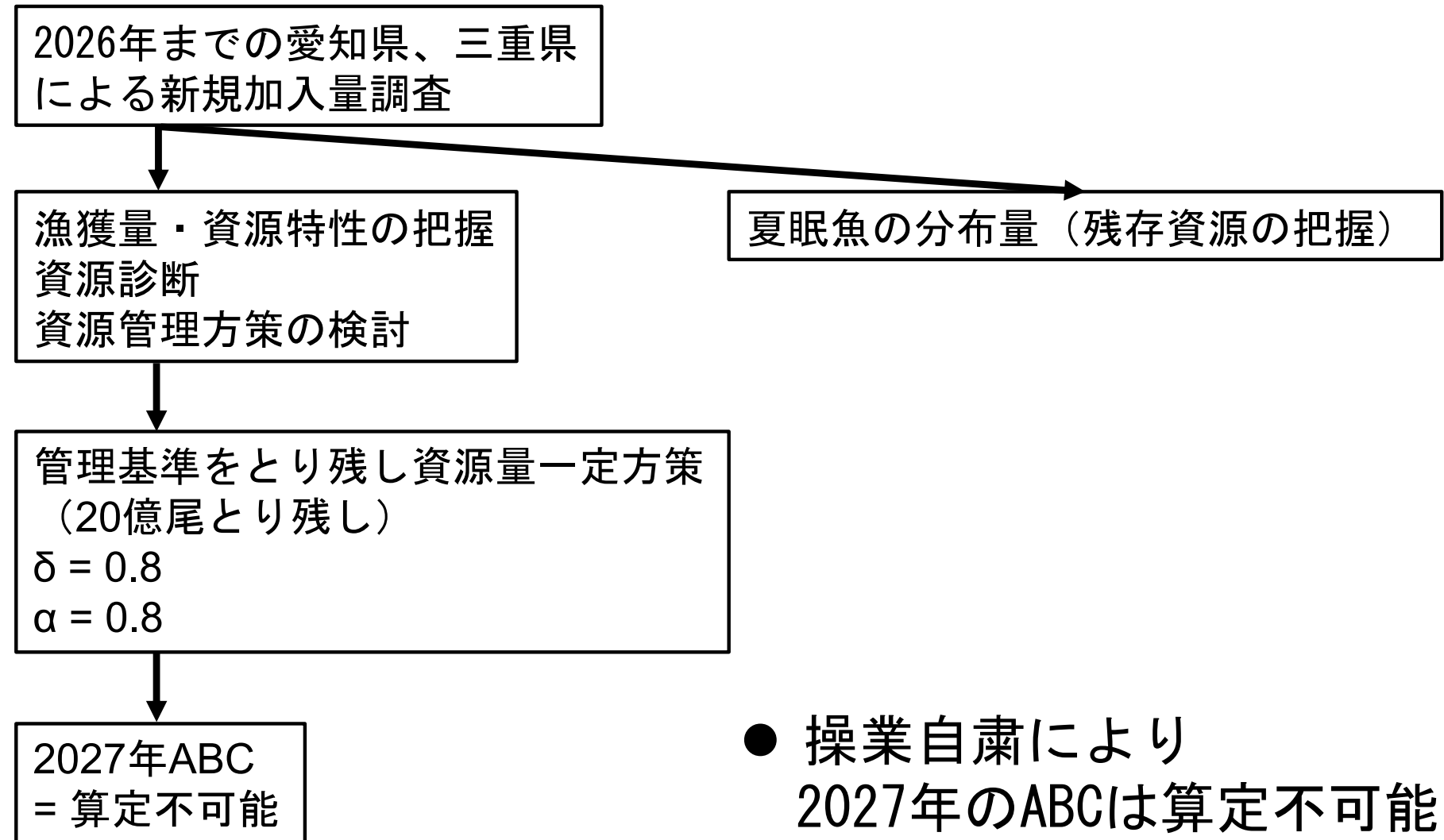
- 漁獲対象は、稚魚（シラス：2～3月）と幼魚（4～5月）
- 漁獲量の90%以上は2～3月の漁期開始後の約2週間で漁獲

漁獲の動向



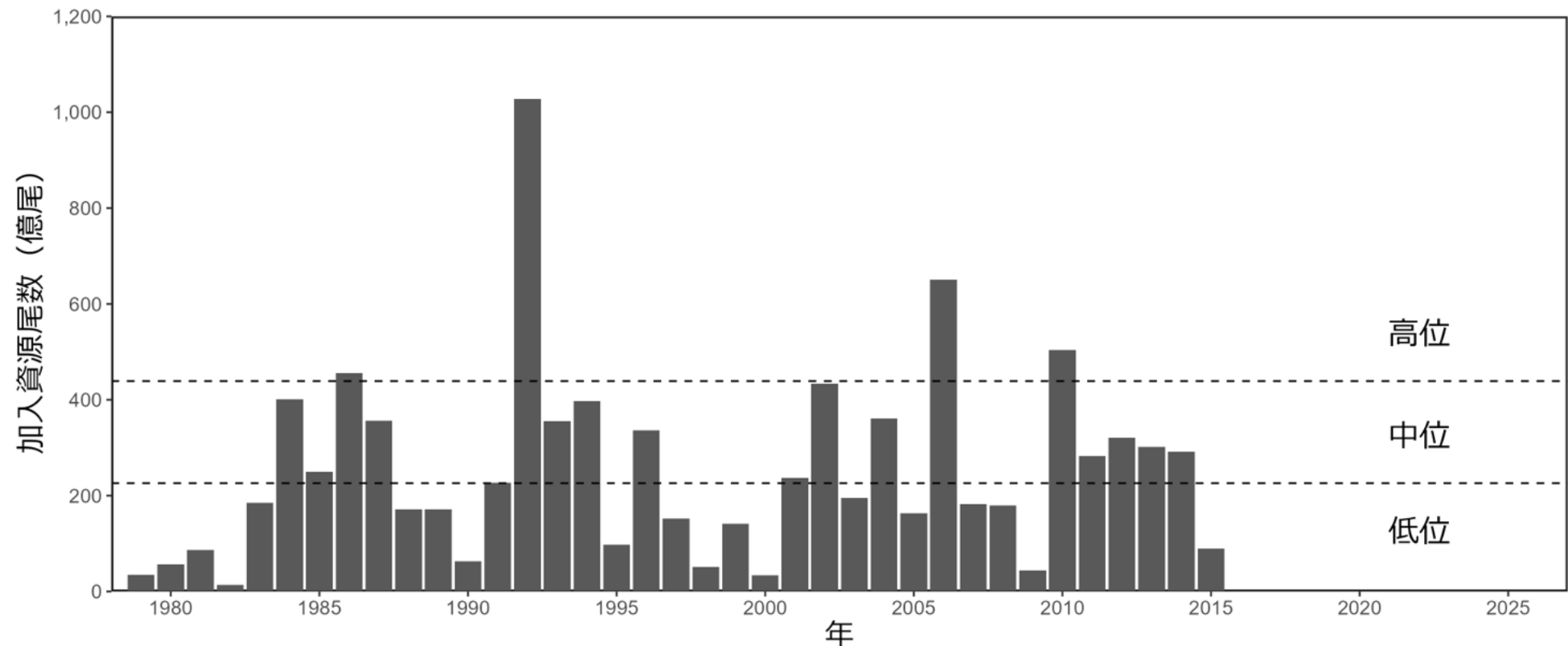
- 2015年まで主に船びき網によって漁獲
- 2016～2026年は操業自粛により漁獲量は0トン

資源評価の流れ



- ※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値
- ※ 20億尾以上をとり残すために、①（DeLury法により）加入資源尾数を推定、
②漁期中のCPUEをモニターして残り20億尾以上になる日を予測し終漁日を設定
 δ と α の値（0.8）は直近で最後にABCを算定した2016年度の標準値

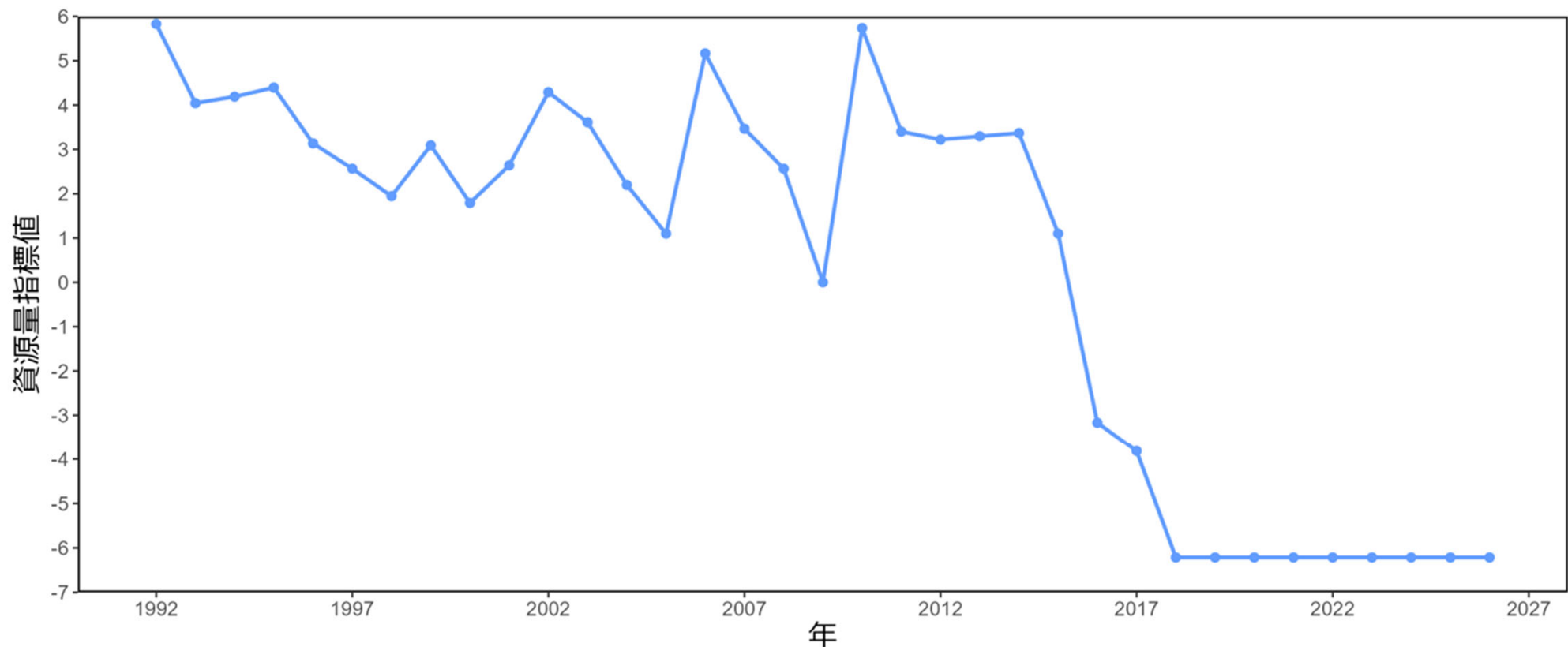
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：加入資源尾数226億尾、中位／高位：加入資源尾数439億尾
(突出して多かった1992年を除き、加入資源尾数の最大値と最小値の間を3等分して算出)

- 2015年以前は加入資源尾数はDeLuryの方法で推定
- 14億尾(1982年)～1,028億尾(1992年)で70倍以上変動
- 2015年は89億尾で水準は「低位」、動向は「減少」
- 2016～2026年の加入資源尾数は操業自粛のため推定不可能

資源の動向②



- 2016年以降は資源量指標値から資源の水準と動向を判断
- 低位であった2015年以降、2017年まで減少傾向が継続
- 2018年以降の新規加入量調査で仔稚魚は採集されず
- 2026年の水準は「低位」、動向は「横ばい」

※資源量指標値：新規加入量調査による伊勢湾内の仔稚魚平均分布密度（尾/m²）の自然対数値
ただし、2018年以降は仔稚魚採集数 = 0尾のため、全年に微小量（最低密度の1/10）を加算後に対数変換

資源評価のまとめ

- イカナゴ伊勢・三河湾系群の資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 2016～2026年は操業自粛により、加入資源尾数は推定不可能

2027年ABC

管理基準	Target/Limit	2027年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの増減%）
Bfishable	Target	—	—	—
	Limit	—	—	—

- 漁業法改正前の考え方に則った基本規則の「Ⅰ．基本的考え方」に基づく管理基準とABC
- 加入資源尾数が推定できないため2027年ABCは算定不可能
- 親魚量20億尾以上をとり残す管理方策の維持が重要